



Pick Up News 進路として「大学院」があります。前期課程(修士)は2年間。工学系の学部・学科では進学率50%以上も一般的です。学びの幅が広い建築は欧米等では5年制が標準です。進学の理由は、得意な分野の力を伸ばしたい、弱い部分の力を補いたい、研究や設計を深め、専門的な力を身につけたい、建築士を取得したいなどいろいろあります。企業・職種によっては、就職活動で大学院生と競わなければならないところもあります。そうすると大学院での学びは大きな力になります。本学建築学科の学生は毎年10名前後進学します。進学は皆さんの将来の進路の幅を広げるとともに、力と自信をつけて社会に出るための貴重な時間となります。奨学金なども充実しています。先輩の声からその魅力を感じ取って下さい。大学院については、いつでも相談に乗りますので気兼ねなく石井まで連絡を下さい。

大学院特集です。大学院生の特集を通して大学院の魅力を感じとって下さい。

1. 大学院を志した理由
2. 大学院進学を決めた時期
3. 大学院で学んでの感想
4. 学部生へのメッセージ

1. **自分の将来のビジョン**が見えておらず、社会で働く自信を持つことができなかつたからです。また、今の学びでは社会に出ても通用しないと考え、大学院に進学することで、様々な人の意見や考えを知り、**自身の知見を広げたい**と思いました。
学部3年生の1月
2. 学部よりも学びの**深い講義**を受けることができたとあります。プレゼンする機会も多くあり、**自分を見つめ直すきっかけ**にもなりました。さらに、同世代たちと議論をし、多種多様な意見を聞くことで、人との価値観の違いなども学びました。
3. 3年生になると就職活動が始まります。もし、自分の将来のビジョンが見えていないのなら、**自分を見つめ直す機会**として大学院進学も視野に入れてみたらどうでしょうか。質の高い講義を受けたり、同世代の様々な意見を聞くことで良い刺激となり、自分がどんな人間になりたいかを考えるきっかけになるとあります。(不破研M2：佐藤匠)
1. 広い社会において問題を解決して貢献していくことができる分野が建築というものだと思ひ大学へ進学し、学部の頃は勉強や交友関係の構築に励んできました。働くことを考えて自分の現状を見つめた時に、**ビジョンが固まらず目標があやふやなまま**でいること、**建築の知識不足**であることが残り**問題解決に向けての視点が浅く提案能力が低いという状態に不安**と先行きに疑問を感じ、このまま社会に出た時に人が関わる分野である以上私はそれらを飲み込んで働くことはできないという結論に至りました。
学部3年生の2月頃
2. 様々な場面で**主体的な活動**を求められ、受け身でいることが損であると思ひました。大学院の学びを充実させる事において、講義は当然として、研究室活動や課外活動、普段の生活でも**将来の目標に向けて計画**を立てていることが求められます。逆に言えば、生活すべてに**学びと自信を高める機会がある**と言えます。院生になると学部生の頃より時間が与えられ、研究室活動においては教授との距離も近くなり、大学内部のみにとまらない活動が可能になります。大学院での学びは、講義や研究室活動のみではなく、自身のやりたいことに向けた学びや体験の機会を普段の生活の中にも作れます。また、課題や活動を通して**自身のやりたい事を明確にする時間**を与えられる機会でもあり、個人的にはこのことがとても有意義であったと思ひます。
3. 修士2年になり、就職先が決まった今でも何がしたいのかと聞かれれば今でも明確に答えられる自身は無く学部生の頃の目標が少しだけ具体的になっただけですが、大学院での時間は**自分を見つめることのできるとても有意義なもの**でした。現在、私はどんな場面でも自分にをどれだけ知っているかが重要だと思っています。大学生活では気心の知れた友人と共に助け合い有意義に過ごすことはとても重要ですが、**学ぶことは、働く形を最後に決めるのはいつでも自分**ということ忘れずに学んで欲しいです。コロナ禍で大変な時期ですが、良いことには共感することで、間違いや疑問には臆せず行動できるような主体性のある大学生生活を送れますよう祈っています。(竹内研M2：堀海幸)
1. 高齢者の**研究がしたい**と思ったからです。
3年前期
2. 質問や発表の機会が多く、**能動的な授業形態**。準備に時間がかかりますが、その分得られるものが多いと感じました。
3. 大学院生は学部生と異なり、先を見てより積極的に行動する力が必要になります。そのような力をつけたい人や**研究を深掘りしたい人**は院進するのも良いかもしれません。(石井研M1：田村大斗)
1. 今行っている**研究を続けたかった**から
3年夏頃
2. 研究に向けて知識を得ている途中ですが、**研究以外での事柄も深く調べる癖がついた**と思ひます。
3. **研究に興味があり、深く携わりたい**と思う人は大学院進学もひとつの手段だと思ひます。(薛研M1：鈴木康太)
1. 構造設計の職に就くためには、**さらに専門的な知識が必要だ**と感じたため。
2. 学部3年の**前期頃**
3. 教員との距離が近く、疑問に思ったことを質問しやすいため、**興味があることについてより深く学べる環境**が整っていると感じている。
4. 大学院は専門分野について深く学べ、**視野を広げることが**できる場だと思うので、**自分の知識に不安がある人やもっと深く学びたい人**は進学も選択肢の一つに含め、考えてみてください。(薛研：M1岩淵志人)

Pick Up Lab. 不破研究室は研究室発足から7年がたちました。今年は、大学院生4名、学部生9名(内院進学4名)が在籍し、10月からは新メンバー(3年生)も加わります。ここでは、これまでの研究の一端をご紹介します。1)重文民家の活用(2015～):茅葺民家の活用・蔵カフェ企画。2)建造物調査(2015～):木造3階建旅館の実測調査ほか。3)町並み調査(2018):「若林区薬師堂界隈の調査報告書」作成。4)地図づくり(2016～):農村の魅力抽出マップの制作・2作目制作中。5)空き家の活用(2019～):仙台最古の民家の実測調査・改修作業を経て、「民カフェ」と題し、喫茶空間を演出し、お披露目企画を実施。



3年 虎有珠さん
富谷高校 出身

Pick Up Student 東北工業大学に入学して2年と半年が経ちました。私は普通科高校の出身で、当初は勉強に追いつけるか心配でしたが、東北工業大学建築学科では優しい先生たちが多く、先生のお借りしながら勉強をして、今では構造力学や材料分野が得意になりました。わかりやすく教えてくださるため、分からないところがあれば直接聞きに行くのはおすすめです。東北工業大学は建築の様々な分野を学ぶことができるので、自分に合う分野を選択して突き詰めることができます。私は研究活動に興味があるので、大学の教員になりたいと考えています。その為に大学院の進学も考えています。困難なことが沢山あると思ひますが、これからも全力で勉強を頑張っていきたいと思ひます！

2年 田中晴翔くん
弘前工業高校 出身

Pick Up Student 入学時は自分の想像しているものが実際に立体的になる事に建築の面白さを感じていましたが、今はその空間にいる事でどのような感情が生まれるのか、そのデザインは地域とどのような繋がりを持つのかなど建築の本質的な要素に面白さを感じていて、入学時と比べて成長できたのではないかと実感しています。また、2年生から「仙台建築都市学生会議」に参加した事で、先輩方や同級生との繋がりも増え、新しい発見や学びを得る事ができました。その中で自分は空間を言語化する事が苦手である事に気付き、言葉のセンスで作品の完成度が変わってくるため、これからは読書を習慣化し、ノートを片手に色々な建築物を見に行きたいと思ひます。